

ナラ類の枯死

志村 良知

三年くらい前の夏、富士山の南にある愛鷹山で、大きな木がいったいに葉を繁らせたまま枯れているのを見て「可哀そうに、マツクイムシでの枯死に似ているな」と思った。

マツクイムシの猛威については四〇年くらい前、四国の瀬戸内沿いをドライブしたとき、行けども行けども亡霊のような松林の有様を見て驚いた記憶がある。他人事と思っていたら、生家の庭の中心にあつて爺様の自慢だった黒松の老木がやられてしまった。

先日東名高速を走っていて、箱根から湘南地方の雑木林に愛鷹山で見たのと同じような枯れ木が沢山あるのに気が付いた。繁った木の葉っぱがまるで紅葉したかのように茶色の枯れ葉になってしまっている。それも梢の高さ競争に勝った大きな木ばかりなので非常に目立つ。

調べるとナラ類（ナラ、ミズナラ、クヌギなど）を食害するカシノナガクイムシという甲虫が媒介するナラ菌が原因で、冒された木は菌の拡散を防ぐために水を運ぶ導管を感染部分で閉鎖し、結果として枯死してしまうのだとあった。マツクイムシによる枯死もカミキリ虫などが媒介するマツノザイセンチュウという線虫に感染した木が導管を閉鎖することで起きていると似ている。どちらも見かけは健康で勢いよく葉を茂らせている木が突然死する。キクイムシはナラ類の大木を好み、同じ高さに密集して食害することが被害木のナラ菌への反応を迅速かつ深刻にしている。

里山のナラ類は新用で、かつては大木化しなかった。生家では薪の生産・販売をしていたが、ナラ、クヌギの薪山は一〇年から一五年位でローテーション管理していて、切り出す木の直径はせいぜい一五センチだった。薪の需要が事実上無くなって、日本中のナラ類やクヌギ無用の雑木として放置され大木化している。ここ一〇年で枯死の被害地域も本数も爆発的に増えているという。

生家の薪山はどうに売り飛ばされ、集積回路製造装置の工場になってしまったので、大木化ともナラ菌とも関係ない。